# 生きもの発見ガイドブック

茨木市

次なる
茨木へ。

# 茨木市の自然

茨木市では、平成27～28年度に自然環境資源調査を実施しました。その結果、市内には希少な生きものが多く見られ、大都市近郊でありながら、非常に豊かな自然が残っていることがわかりました。

## 市北部に残る貴重な自然

茨木市には、北部に広がる棚田やため池を中心に良好な里地里山環境が残っています。竜王山周辺や安威川上流部は、日本固有種を含め、希少な野生動植物が見られ、大阪府内で種の多様性が高い地域として「生物多様性ホットスポット Aランク」（大阪府レッドリスト2014）に指定されています。

棚田の周囲を流れる川では、ホタルが舞い、里山では、オオムラサキをはじめ、多くの生きものが見られます。

また、市街地では、安威川や西河原公園などが、市民にとって身近な自然とのふれあいの場となっています。

■棚田

■オオムラサキ

## 変わりつつある自然の姿

「里山の荒廃」「耕作放棄地の増加」「外来種の分布拡大」などにより、徐々に自然環境が変化し、もともといた生きものがすめなくなるなど、豊かな自然が失われつつあります。

そのような自然の荒廃を防ぐため、現在、市内では様々な団体が、里山の整備など、自然環境保全活動に取り組んでおり、成果が現れ始めている地域もあります。

# 調査の目的

市では、豊かな生態系が守られているか確認する上で、指標となる種を調査対象種（4ページ参照）として選定しました。調査対象種が見られる場所を調べることで、環境の変化や自然環境保全活動の成果の把握に活用していきたいと考えています。

# 調査の準備

## 服装

- 夏でも腕や足を出さない長袖、長ズボンが基本です。
- 帽子をかぶりましょう。
- 荷物はリュックサックなどに入れ、両手が空くようにしましょう。
- 靴は登山靴や運動靴、長靴などすべりにくい靴底のものを選びましょう。

## 持ち物

（●：必要なもの　※：あると便利なもの）

●本ガイドブック　●筆記用具　●ノート

※カメラ ※双眼鏡 ※雨具 ※水筒 ※お弁当(必要に応じて)

※虫除け ※タオル ※救急用具 ※軍手 ※図鑑 ※地図 など

### 野外における危険な生きもの

野外では、触るとかぶれたり、刺されるとけがをする生きものがいます。

**スズメバチ等**
巣に近寄ると攻撃してきます。ハチが頻繁に飛んでいる場所には近寄らないようにしましょう。

**マムシ**
草むらに不用意に入らないようにしましょう。日当たりの良い場所で日向ぼっこをしていることもあります。

**セアカゴケグモ**
おとなしいクモですが、かまれると針で刺されたような痛みがあり、重症化することもあります。

**ウルシ類**
触るとかぶれます。不用意に触らないようにしましょう。軍手があると便利です。

# 調査結果の記録

生きものを観察したら、記録をとる習慣をつけましょう。生きものの種類、数、場所、気付いたことなどをその日ごとに記録をしていくと、自分だけのオリジナルのフィールドノートが完成します。生きものの写真も撮ると良いでしょう。

また、環境省ウェブサイト「いきものログ」にユーザー登録し、みなさんが見つけた生きもの情報（見つけた日にち、場所、写真など）を報告することで、みんなで生きものの情報を共有できます。

調査の結果は、右のQRコードよりアクセスして、「いきものログ」にある「茨木市」のページから報告してください。

## レッドリスト・レッドデータブックとは？

日本では、国や都道府県などの単位で、絶滅のおそれのある野生生物が選定され、レッドリストもしくはレッドデータブックとして公表されています。

平成29年時点では、国（環境省）のレッドリストでは3,634種が、大阪府のレッドリストでは1,485種が選定されています。

## 本書のみかた

レッドリストの選定について（種名横）

国：「環境省レッドリスト2017」選定種

府：「大阪府レッドリスト2014」選定種

観察適期

春：その季節(春)にみることができる

春：その季節(春)にみることができない

識別難易度(区別のしやすさ)

★:かんたん

★★:ふつう

★★★:むずかしい

観察難易度(みつけやすさ)

★:かんたん

★★:ふつう

★★★:むずかしい

# 調査対象種

本誌では、初級編として、調査対象種のうち比較的容易に見分けることができる30種（以下に太字で表記）について、次頁以降に記載しています。

## 里地里山・・・P5

植　物：ミズハコベ・**イチョウウキゴケ**・ツリガネニンジン
哺乳類：**ホンドギツネ**
鳥　類：オオタカ・フクロウ・**モズ**・カワセミ
爬虫類：**シマヘビ**・ヒバカリ
両生類：アカハライモリ・ニホンヒキガエル・モリアオガエル・**トノサマガエル**
昆虫類：ミヤマアカネ・ナツアカネ・アキアカネ・イトトンボ類・**ヘイケボタル**・**ゲンジボタル**・ミズカマキリ・ゲンゴロウ類
魚　類：**ミナミメダカ**
甲殻類：カブトエビ・カイエビ・ホウネンエビ

## 森林・・・P9

植　物：**ササユリ**・**シュンラン**・オオバノトンボソウ
哺乳類：**ニホンリス**・ホンドテン
鳥　類：**キビタキ**・**アオゲラ**・アカゲラ・センダイムシクイ・カケス
両生類：タゴガエル・ヒダサンショウウオ
昆虫類：**オオムラサキ**・ダイミョウセセリ・ミヤマセセリ・**ミヤマクワガタ**・ハルゼミ

## 公園緑地・・・P13

植　物：ヒメウズ
鳥　類：**シジュウカラ**・**コゲラ**
爬虫類：ニホントカゲ・ニホンカナヘビ
昆虫類：コクワガタ・**アオスジアゲハ**・カネタタキ・**ニイニイゼミ**

## 河川・・・P19

鳥　類：アオサギ・**カワウ**
魚　類：**アユ**・ニホンウナギ・マハゼ・ウキゴリ
甲殻類：**テナガエビ**

## 渓畔林・・・P17

植　物：**アラカシ群落**
鳥　類：ヤマセミ・カワガラス・オシドリ・オオルリ・サンコウチョウ
両生類：**オオサンショウウオ**・**カジカガエル**
昆虫類：**ミヤマカワトンボ**・イシガケチョウ
魚　類：アジメドジョウ
甲殻類：**サワガニ**

## ヨシ原・・・P21

植　物：タコノアシ
哺乳類：**カヤネズミ**
鳥　類：コサギ・オオヨシキリ・**ハクセキレイ**・**セグロセキレイ**・ツバメ
昆虫類：ハグロトンボ・ニホンカワトンボ・コヤマトンボ
魚　類：ナマズ
甲殻類：ヌマエビ

# 里地里山

　里地里山は、市の北部の棚田周辺で見られます。
　耕作地や樹林、草地、ため池、水路など様々な環境から構成され、希少な動植物を含め、多くの生きものが見られます。カエルやホタルなど、成長の過程で水域と陸域の両方の環境を行き来する種が多く見られるのも特徴です。

## イチョウウキゴケ（ゼニゴケ目ウキゴケ科） 国 府

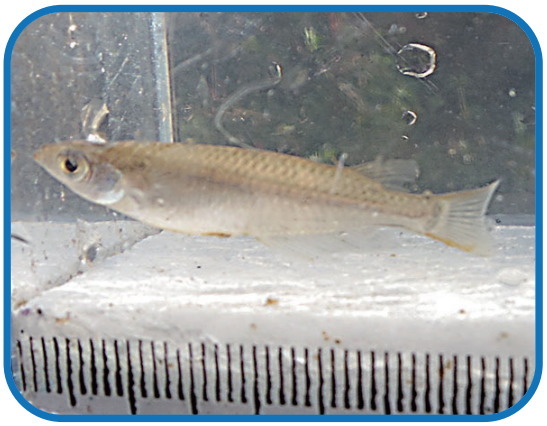
■識別難易度　★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
長さ約１cm。幅約0.5cm。イチョウのような形をしており裏面は紫紅色。
■生育環境
水田や湿地、ため池で見られる。水の汚れや農薬の影響に弱く、水質の良い環境でないと生育できない。

## ホンドギツネ（ネコ目イヌ科） 府

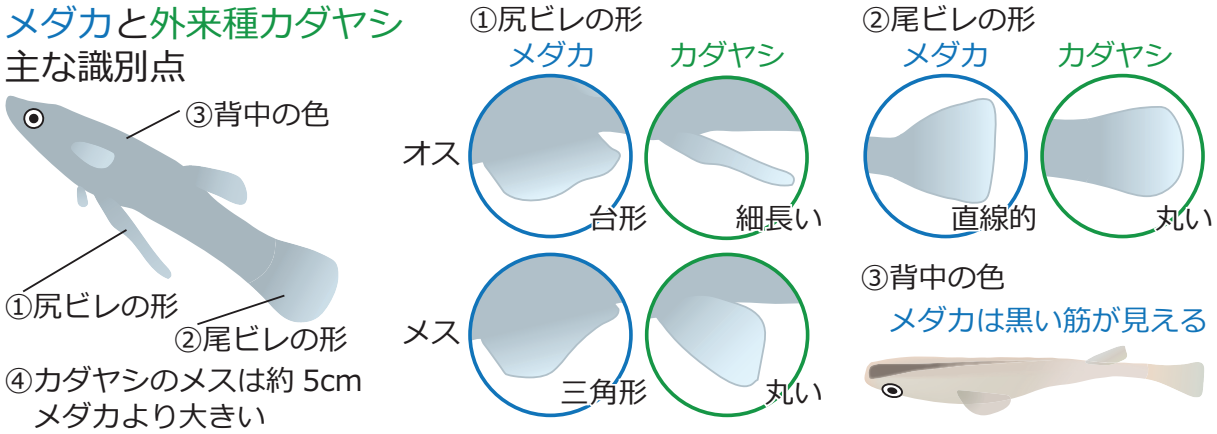
■識別難易度　★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
体毛は赤みがかった黄色で、お腹と頬、尾の先は白色。尾は大きくイヌと区別できる。
■生息環境
耕作地の周辺や林などで見られる。餌となる小動物が豊富にいる環境でないと生息できない。大阪府内の生息地は限られている。

## ミナミメダカ（ダツ目メダカ科） 国 府

■識別難易度　★
■観察難易度　★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
大きさ約3.5cm。背中に黒い筋がある。尻ビレが体に沿って長く、尾ビレのふちがまっすぐになっている。



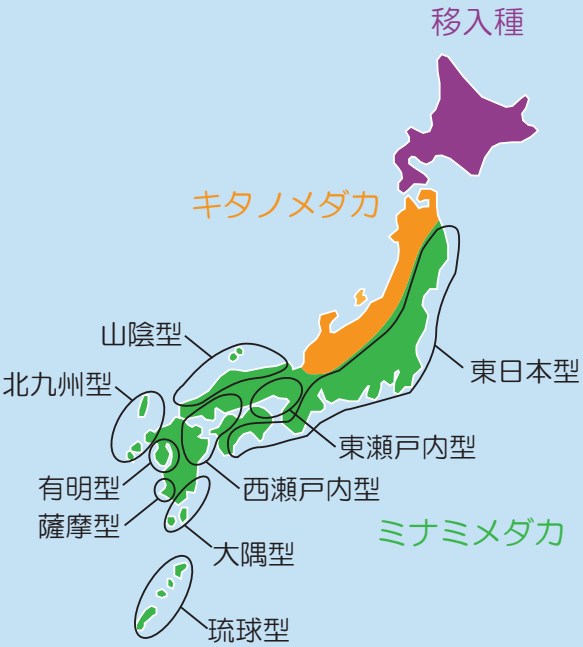
■生息環境
水田や水路、ため池で見られる。農薬の影響が少ない素掘りの水路などを好み、自然度の高い水域に生息する。




### 日本のメダカはどれも同じ？

　メダカは日本各地に分布していますが、平成24年に、キタノメダカとミナミメダカの２種に分類され、さらに、各地で遺伝的に異なる別々の地域集団に分かれていることがわかってきました。同じようにホタルなども地域によって、遺伝的に異なることが知られています。

　生息地域の異なる個体を放すと、本来その土地で長い年月をかけて形成されてきた固有の遺伝子が失われてしまうことになるため、安易な放流などは慎まなければなりません。



## モズ（スズメ目モズ科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
スズメより大きい。頭は茶色で顔には黒く太い線がある。長い尾を振りながら枝に止まっていることが多い。
■生息環境
農地や林の縁などの開けた環境で見られる。餌となる小鳥類や両生類・爬虫類・昆虫類などが豊富に生息している環境が必要。

## トノサマガエル（無尾目アカガエル科） 国 府

■識別難易度　★
■観察難易度　★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
大きさ４～9cm。体色は灰褐色から緑色。背の中央には、黄緑または白の線がある個体が多いが、線が目立たない個体もいる。
■生息環境
水田やため池で繁殖し、成体は水田近くの草むらなどで生活する。

## シマヘビ（有鱗目ナミヘビ科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
体色は黄褐色から褐色。体にはっきりとした４本の黒い縞模様があるが、縞が目立たない個体もいる。目は赤茶色。
■生息環境
山や農地などで見られる。生息するには、ネズミや小鳥、カエルなどの餌が豊富にいる環境が必要。

## ゲンジボタル（コウチュウ目ホタル科）

■識別難易度　★★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 **夏** 秋 冬
■特徴
大きさ1.4～ 1.8cm。背に黒い十文字の模様がある。
■生息環境
河川や水路周辺で見られる。産卵するための水際の苔や木、幼虫が育つためのきれいな水が1年を通して流れている川、幼虫がさなぎになるための土手を必要とする。

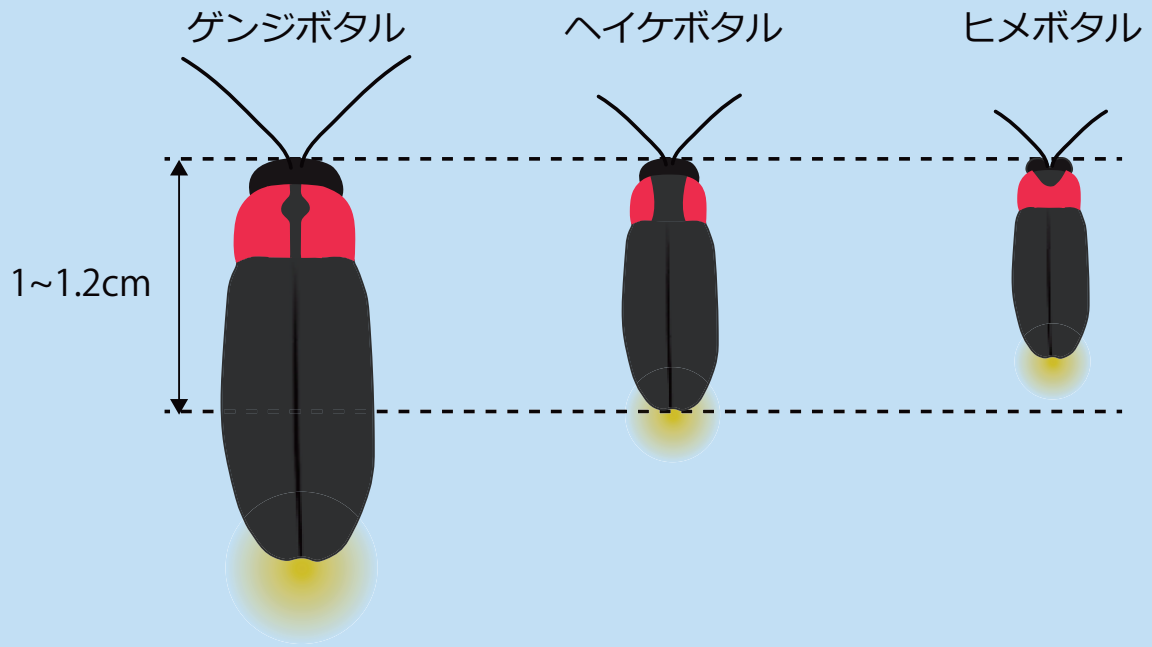
## ヘイケボタル 府（コウチュウ目ホタル科）

■識別難易度　★★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 **夏** 秋 冬
■特徴
大きさ1.0～ 1.2cm。背の黒い模様はまっすぐである。
■生息環境
水田や流れのゆるやかな水路周辺で見られる。幼虫は水田などで成長し、畔などの土中でさなぎになる。農薬の影響や圃場整備、乾田化により全国的に減少している。

## ホタルの見分け方

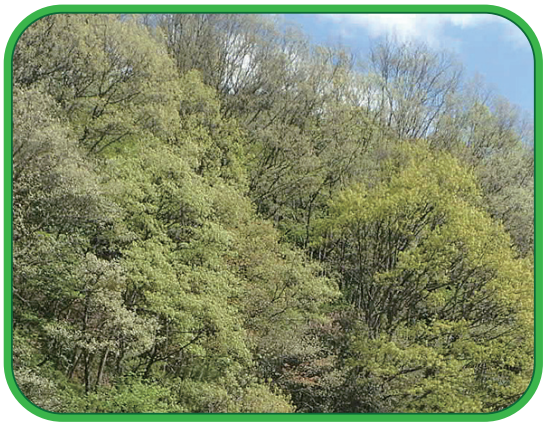
茨木市北部には豊かな里地里山が残っているため、ゲンジボタル・ヘイケボタル・ヒメボタルが見られます。ヒメボタルは、幼虫期を林内の落ち葉が積もり、適度に湿度がある環境で生活します。

それぞれ胸の模様や光の点滅する間隔、幼虫の生息環境が異なります。




| | ゲンジボタル | ヘイケボタル | ヒメボタル |
|---|---|---|---|
| 発光周期 | 2秒間隔 | 1秒間隔 | 0.5秒間隔 |
| 幼虫の生息環境 | 流水 | 止水 | 林内 |

# 森林



市の北部には、100ha以上の森林が見られます。

茨木市の森林は、アカマツやコナラからなる雑木林の割合が高いのが特徴です。雑木林には、ササユリなど明るい林を好む特有の動植物が見られます。

また、ニホンリスやテンが生息していくためには、まとまった森林を保全していくことが重要です。

## ニホンリス（ネズミ目リス科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
40cmほどの大きさ。背中は褐色で、腹は白い。リスが食べた松ぼっくりはエビフライのように見える。
■生息環境
マツ林などに生息し、樹上を動き回る。林道や林床に、松ぼっくりを食べた跡が散らばっているのを目にすることがある。

## ササユリ（ユリ目ユリ科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
花は、6～7月に咲く。淡いピンク色で直径10～15cmと大きい。葉はその名の通り、ササの葉に似ている。
■生育環境
落葉広葉樹林の林床や林の縁に見られる。遷移が進み、林内が暗くなると見られなくなる。

## シュンラン（キジカクシ目ラン科）

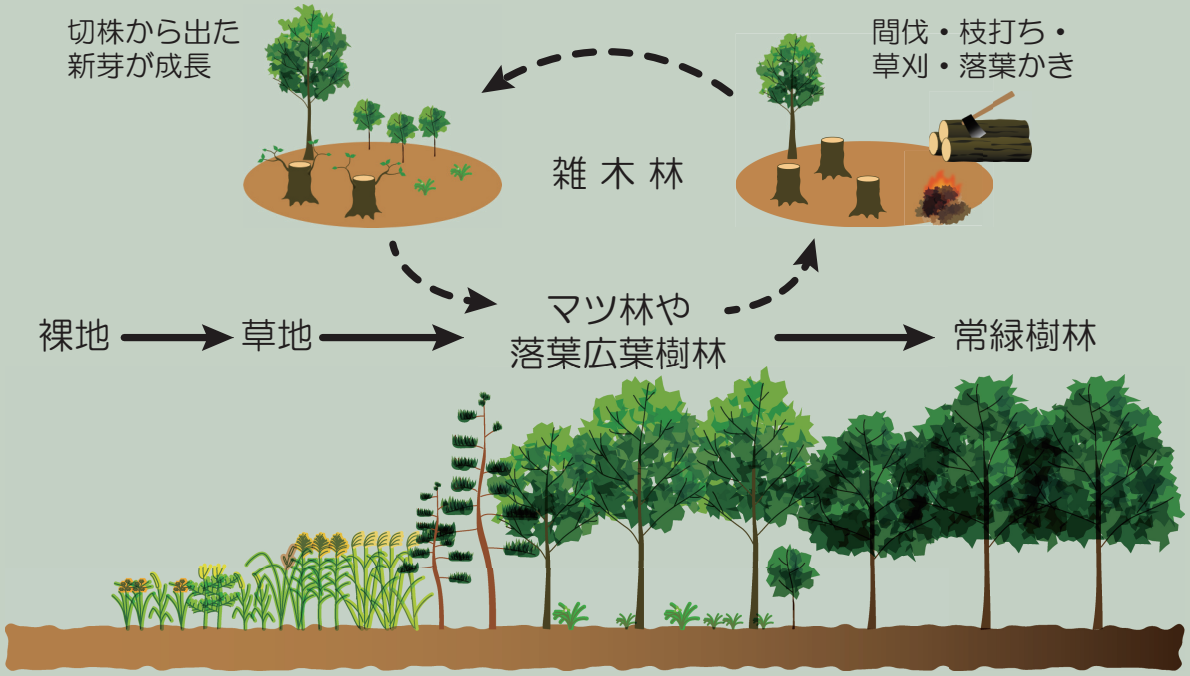
■識別難易度　★
■観察難易度　★★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
花は、３～４月に咲く。淡い黄緑色で5cmほど。葉は深緑色で細長い。その名の通り、春を告げる花。
■生育環境
落葉広葉樹林の明るい林床で見られる。
遷移が進み、林内が暗くなると見られなくなる。

## 雑木林～人によって守られてきた自然～

なにも生えてない裸地には、まず草が生え、やがて木が生え、長い年月を経て森林を形成していきます。このような植生の変化のことを「遷移（せんい）」といいます。

雑木林は、人が薪炭林として定期的に伐採を行うことで遷移の進行を止め、遷移途中の明るい林が維持されてきたものです。このような明るい林には、そのような環境を好む特有の動植物が多く見られます。

しかし、今日、人が雑木林の管理をしなくなったことで遷移が進行し、徐々に暗い林に変化しつつあります。これにより、もともと雑木林で見られた多くの生きものが絶滅の危機に瀕しています。



## キビタキ（スズメ目ヒタキ科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
スズメほどの大きさ。雄は、黒と黄色の鮮やかな配色をしている。黄色い眉のような斑がある。
■生息環境
春に南から渡ってきて、樹洞や木の裂け目などで巣を作る。繁殖には落葉広葉樹林を好む。

## アオゲラ（キツツキ目キツツキ科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
ムクドリより少し大きいキツツキ。翼や背中は緑色で、後頭部は赤い。腹には黒い模様がある。
■生息環境
平地から山地の林に生息し、主に昆虫類を食べる。生木の大木に巣穴を掘る。

## オオムラサキ（チョウ目タテハチョウ科）国 府

■識別難易度　★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
10cmを越える大型のチョウ。はねの表面は、オスは青紫色、メスは茶色に白の斑点。はねの裏面は白っぽい。
■生息環境
成虫はクヌギやコナラなどの樹液に集まり、幼虫はエノキ類の葉を食べる。人の手の入った規模の大きい雑木林を好む。

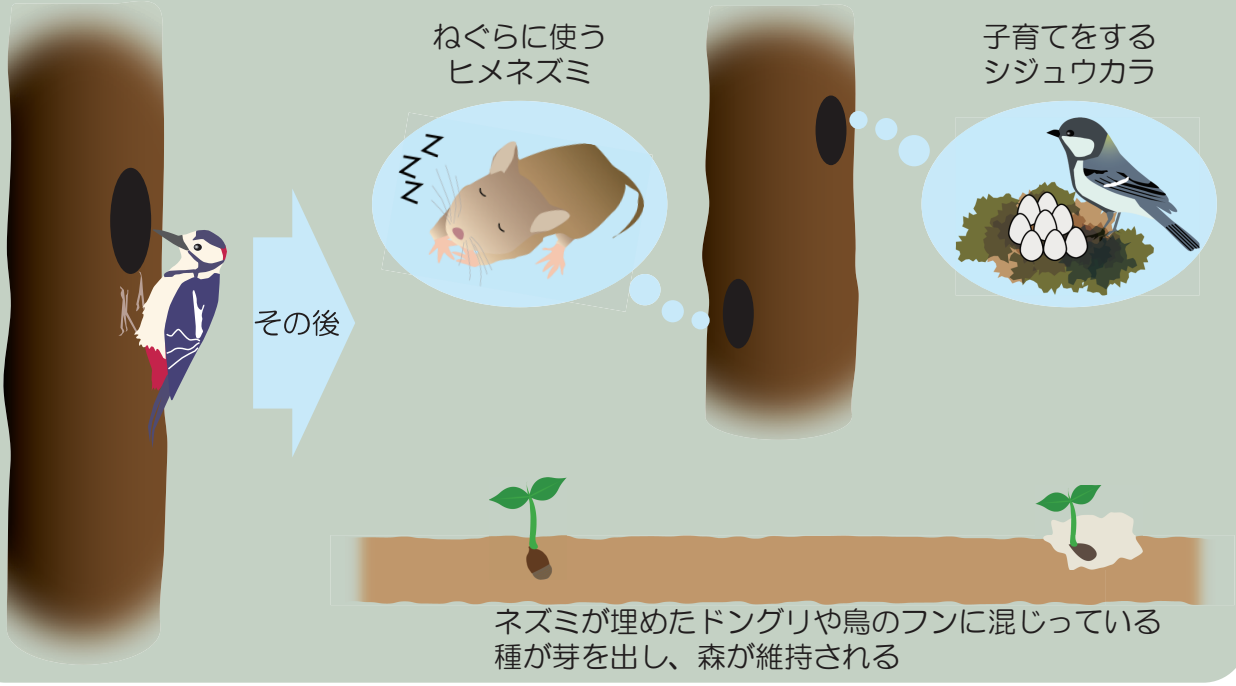
## ミヤマクワガタ（コウチュウ目クワガタムシ科）

■識別難易度　★★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 **夏** 秋 冬
■特徴
オスは約３～7cm。メスは約２～５cm。オスの頭部は盛り上がっている。表面には金色～褐色の毛が生えている。
■生息環境
涼しい環境を好み、山地のコナラやクヌギなどの樹液に集まる。昼間にも活動する。

## キツツキが生態系を支える！～キーストーン種～

キーストーン種とは、その地域に生息する生きものや生態系に及ぼす影響が大きい種のことをいいます。石橋の真ん中にある石のように、その石を失うと橋が崩れてしまうような要（となる）石の役割を果たしています。

例えば、キツツキは木の幹に穴を掘り、巣として利用します。キツツキが使った後の樹洞を、自分で樹洞を掘ることができないシジュウカラなどの小鳥類やフクロウ、コウモリ類、ヒメネズミなどが子育てをするための巣として、またねぐらとして利用します。このように、キツツキは多くの生きものにすみかを提供し、森の生態系という石橋を維持するための要石の役割を果たしています。



# 公園緑地

　都市部にある1ha以上の面積の公園緑地としては、西河原公園や耳原公園、元茨木川緑地などがあります。
　これらの公園緑地では、シジュウカラなどの小鳥類やチョウ類などが見られ、まとまった緑の少ない都市部において、生きものの重要な生息場所や移動経路になっています。また、自然とのふれあいの場としても、重要な役割を果たしています。

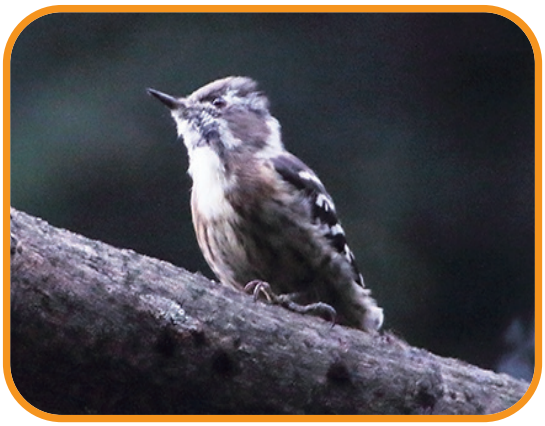
## アオスジアゲハ（チョウ目アゲハチョウ科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★
■観察適期　**春** **夏** **秋** 冬
■特徴
大きさ約3～5cm。黒地のはねに青白い筋が入っている。
■生息環境
幼虫は街路樹に多く用いられるクスノキ科の植物を食草とするため、公園緑地などで見かけやすい。

## ニイニイゼミ（カメムシ目セミ科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 **夏** 秋 冬
■特徴
大きさ約3～4cm。成虫は「チー」と細く鳴き、はねに褐色の斑模様がある。幼虫の抜け殻は全身が泥だらけ。
■生息環境
木の皮に似ていて見つけにくい。幼虫は乾燥に弱く、街路樹などで育つことはできない。生息には、木がまとまって生えている湿った土壌が必要。

## コゲラ（キツツキ目キツツキ科）



■識別難易度　★
■観察難易度　★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
スズメほどの大きさ。小型のキツツキ。
こげ茶色の背中に白い点模様がある。
「ギー」という鳴き声が特徴的。
■生息環境
都市に近い緑地でも見られ、主に木につく昆虫やその幼虫を食べる。
立ち枯れた木に巣穴を掘る。

## どうしたらいいの？　外来種

外来種とは、もともとその地域にいなかった生きもので、人間の活動により他の地域から運び込まれた生きものです。外来種には、もともといた生きものを食べて駆逐してしまうなど、在来の生きものに悪影響を及ぼすほか、人間の生活まで脅かす種もいます。

外来種による被害を予防するには「入れない」「捨てない」「拡げない」の３原則が大切です。もともといなかった生きものが一度入ってしまうと、元の状態に戻すことは難しくなります。そのため、事前の侵入を防ぐことが大切です。また、侵入してしまった外来種に対しては、これ以上拡げないよう対処法について一人ひとりが正しく知り、行動する必要があります。

アメリカザリガニ

セアカゴケグモ

オオキンケイギク(写真)
ナルトサワギク

【対処法】

もし飼っても野外へ放さない。

見つけても素手で捕まえず、殺虫剤をかけてください。

根から抜き取り、袋などに入れ、枯れてから処分しましょう。

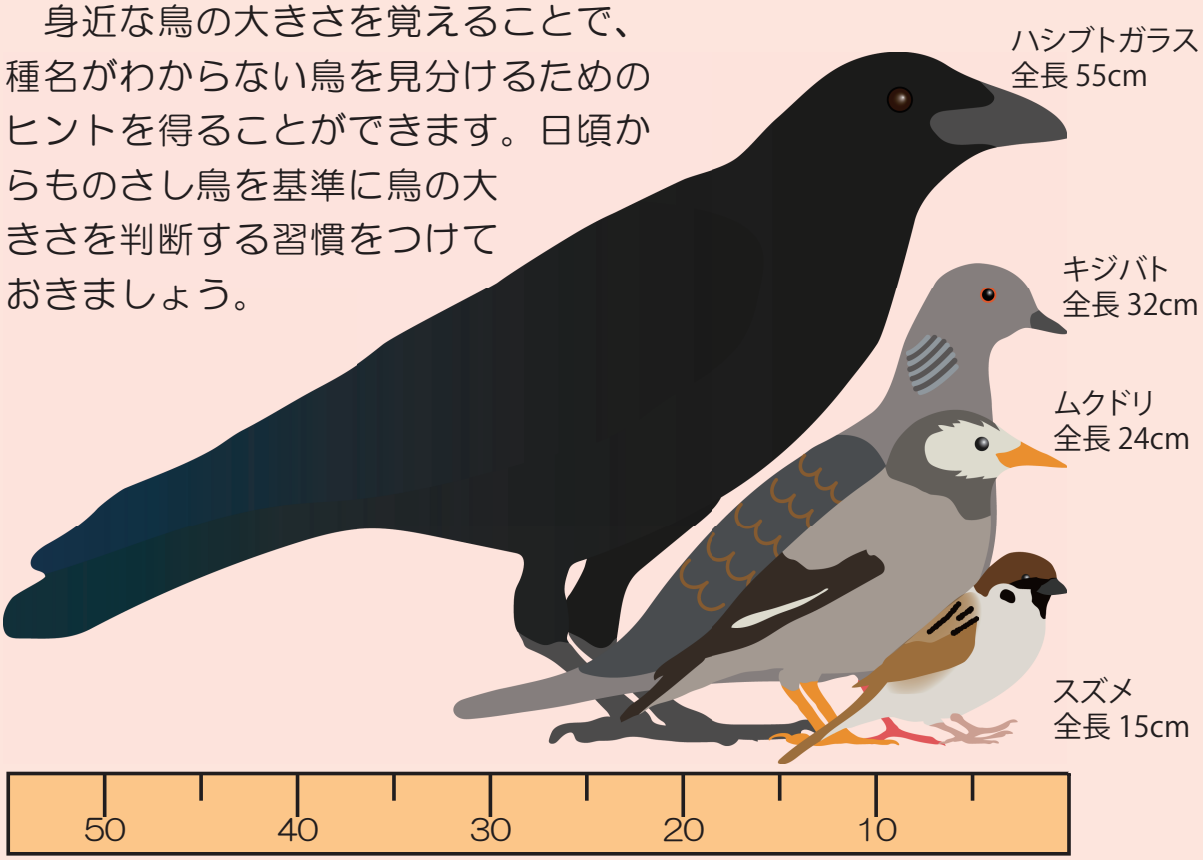
## シジュウカラ（スズメ目シジュウカラ科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
スズメほどの大きさ。頭は黒く、頬は白い。のどから腹にかけてネクタイのような黒い線がある。「ツツピーツツピー」と鳴く。
■生息環境
山地から都市の林で見られる。樹木に生息する昆虫を餌とする。使われなくなった人工物などにも巣を作ることがある。

### 鳥を見分けるコツ～ものさし鳥～

　ものさし鳥とは、鳥を見分けるときに、大きさの基準となる鳥のことです。一般的に身近な鳥であるスズメ、ムクドリ、キジバト、ハシブトガラスがものさし鳥といわれています。種類がわからない鳥の名前を調べる時に、その鳥がどれくらいの大きさであるかがわかることは、とても大切です。

　身近な鳥の大きさを覚えることで、種名がわからない鳥を見分けるためのヒントを得ることができます。日頃からものさし鳥を基準に鳥の大きさを判断する習慣をつけておきましょう。



## フィールドサインを探してみよう！

哺乳類は、警戒心が強く、夜行性のものも多いため、実際にその姿を見る機会は多くありません。しかし、彼らの足跡や糞を手がかりに、生息状況が明らかになります。道端や水たまりの乾いた跡など、動物がいた手がかりを探してみてください。

### キツネ

■足跡　4.5×3.5cm
指跡は4本で中央の2本が前に出て、縦長の形となる。足跡がほぼ一列になる。

■糞　8cm
目立つ場所に1個で落ちていることが多く、ノネズミの毛や歯が含まれていることが多い。

### タヌキ

■足跡　3.5×3.5cm
指跡は4本で全体が丸みを帯びる。足跡が二列に並ぶ。

■糞　6cm
尾根道や竹藪、林内など決まった場所に糞をする(ため糞)。

### テン

■足跡　3.5×4.5cm
タヌキとキツネに似るも、指跡は5本で指先までくっきりと残る。

■糞　8cm
岩の上などにあることが多く、種子が含まれることが多い。

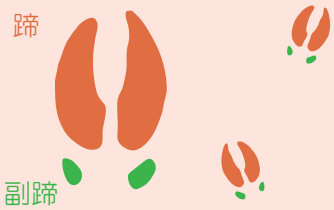
### アライグマ

■足跡　10×6cm
指跡は5本で、指の形が切れ目なくつく。かかとまで地面につくため、縦長の足跡となる。

■糞　10cm
道路沿いなど目立つところに多い。
骨や羽、種子が含まれる。

### イノシシ

■足跡　7×5cm
つま先の蹄(ひづめ)の跡に加え、かかとの副蹄の跡も残る。



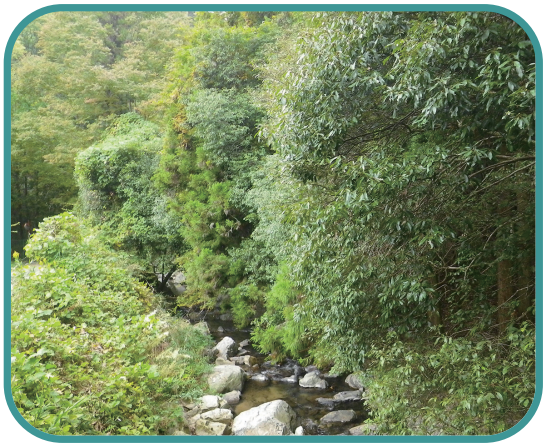

■糞　8cm
粒状の糞がつながっている。どんぐりや根など植物質が多く含まれる。

### ニホンジカ

■足跡　5×4cm
つま先の蹄(ひづめ)の跡が残るが、かかとの副蹄の跡は残らない。

■糞　1.5cm
けもの道でよく見られ、太鼓のような形をしている。

# 渓畔林



安威川上流の竜仙峡付近には、自然植生のアラカシ群落が広がっており、大阪府下では貴重な群落となっています。また、安威川の上流部から下音羽川渓谷にかけては、河岸に連続して渓畔林が発達し、豊かな生態系が形成されています。

オオサンショウウオやヤマセミなど、市内ではここにしか生息しない生きものがみられます。

## アラカシ（ブナ目ブナ科）

■識別難易度　★★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
葉は長楕円形で先端側にギザギザがある。2cmほどの卵型のどんぐりを落とす。
■生育環境
アラカシが優占する自然林は、茨木市内でも安威川上流など限られた場所にしか分布していない。

## オオサンショウウオ（有尾目サンショウウオ科） 国 府

■識別難易度　★
■観察難易度　★★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
現存する世界最大の両生類。頭部は平たく大きいが目はとても小さい。一生を水中ですごす。
■生息環境
中上流域の水温や水質が安定した環境を必要とする。茨木市内では限られた場所にのみ生息する。
※特別天然記念物に指定されており、捕獲等は法律で禁止されています。

## カジカガエル（無尾目アオガエル科）

■識別難易度　★★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
4～8cmのカエル。体色は岩と似ていて保護色になっている。「フィーフィー」と美しい声で鳴く。
■生息環境
渓流の石の上や浅瀬で鳴いている。オタマジャクシは、川沿いの流れの緩やかな箇所などに生息するため、護岸が固められると生息できない。

## ミヤマカワトンボ（トンボ目カワトンボ科）

■識別難易度　★★
■観察難易度　★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
体長6.5～8cm。はねは褐色で体は金属光沢があり、水辺をひらひらと飛び回る。
■生息環境
成虫は山地の渓流に生息し、幼虫は水中の朽木や植物などにつかまって生息する。

## サワガニ（エビ目サワガニ科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
甲羅の幅は大きくても3cmほど。体色は赤、赤茶、薄い青などさまざまである。
■生息環境
きれいな渓流の石の裏などで見られる。砂利、小石の多い環境を好む。

# 河川

川にすむ生きものの中には、ニホンウナギやアユのように海と川を行き来する生きものがいます。

大正川や安威川は、河口から中流部にかけて、大きな堰（せき）などの流れをせき止める構造物がなく、海からの連続性が確保されているため、魚類相が非常に豊かになっています。

## カワウ（カツオドリ目ウ科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
80cmほどの大きさ。全身ほぼ黒色で首が長い。繁殖期には、頭に白い繁殖羽が生える。
■生息環境
川や池で見られる。魚を食べるため、川の動物相が豊かであることを示す。群れで河畔の林などに巣を作り、繁殖する。

## アユ（サケ目アユ科） 府

■識別難易度　★★
■観察難易度　★★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
背は青みを帯びたオリーブ色。腹は銀白色。触るとスイカのにおいがする。
■生息環境
一生の中で海と川を回遊するため、大きな堰（せき）などのない海と川のつながりが保たれている川で見られる。産卵は、中下流域の泥の堆積がない砂利底の浅瀬で行う。浮き石や淵（ふち）のある変化に富む河床を好む。

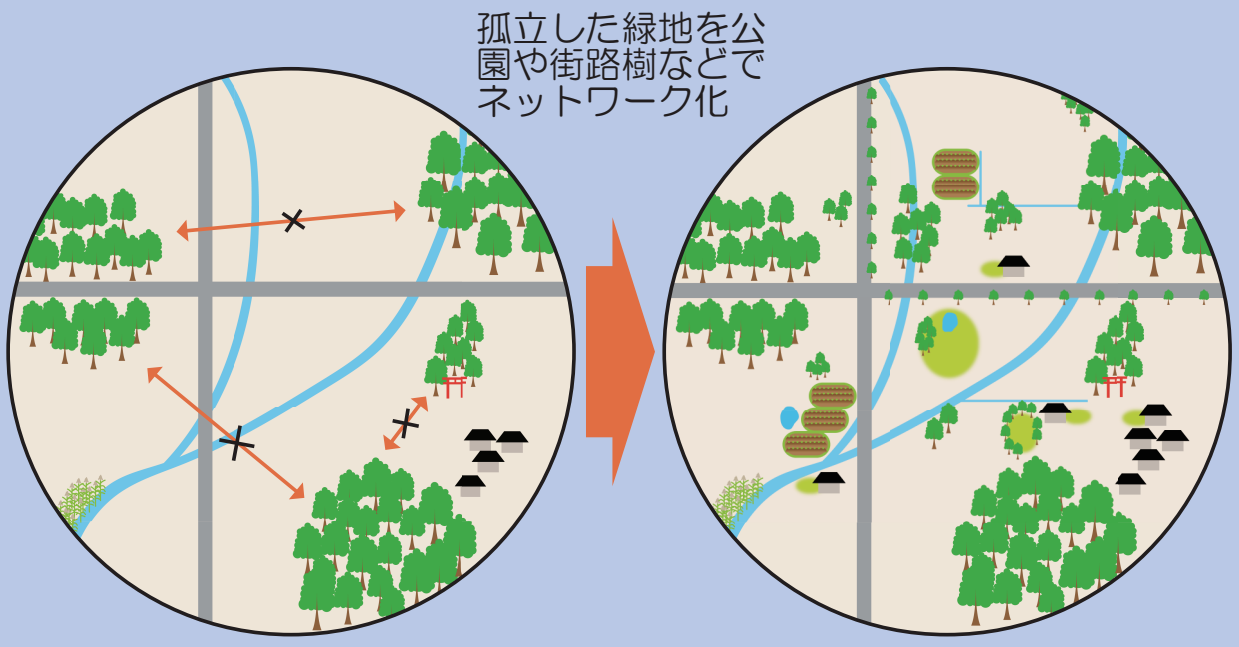
## テナガエビ（エビ目テナガエビ科）

■識別難易度　★
■観察難易度　★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
3～20cmほどの大きさ。その名の通り、手が長く、大きなハサミをもつ。
■生息環境
流れが緩やかで水草が生い茂ったところで見られる。卵からかえった子どもは海まで下り、その後川を遡上する。

## つくろう！ 守ろう！ エコロジカルネットワーク

生きものの生息地間を緑地や河川で繋ぎ、ネットワーク化された状態をエコロジカル・ネットワーク（生態系ネットワーク）と言います。生息地から生息地へ自由に生きものが行き来できる連続性が確保されることで、生態系の保全と回復が図れます。

都市部では、河川や公園緑地が生きものの重要な移動経路となっています。また、庭にチョウや鳥が好む花や木を植えることもエコロジカル・ネットワークの形成に役立ちます。



# ヨシ原

ヨシ原などの自然植生が連続した河川は、都市部において、鳥類や昆虫類、水生生物等の貴重な生息場所となっています。

安威川では、ヨシ原が下流から中流部にかけて、数kmにわたり連続して分布しており、エコロジカル・ネットワーク（20ページ参照）としても重要です。

## セグロセキレイ（スズメ目セキレイ科）

■識別難易度　★★
■観察難易度　★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
スズメより大きい。顔から背中にかけて黒く、顔には白い眉のような斑がある。尾羽が長い。
■生息環境
河原などで見られる。冬はヨシ原などをねぐらとする。

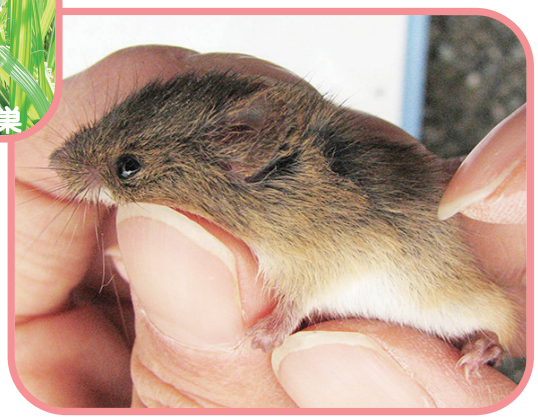
## ハクセキレイ（スズメ目セキレイ科）

■識別難易度　★★
■観察難易度　★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴
スズメより大きい。白い顔に目を通る黒い線が特徴的。尾羽が長い。
■生息環境
公園や水辺で地面を素早く歩く姿を見られる。餌となる昆虫などが生息に必要である。

## カヤネズミ（ネズミ目ネズミ科） 府

■識別難易度　★
■観察難易度　★★★
■観察適期　春 夏 秋 冬
■特徴

カヤネズミの巣



胴体は5～8cmと小さく、日本最小のネズミ。胴体と尾がほぼ同じ長さ。巣は球状で、ソフトボールくらい。ススキやヨシなどに巣をつくることが多い。

■生息環境

ススキやヨシ、オギなどの草がある程度まとまって生えている草地で見られる。草の上に作られた巣を探すと良い。河川改修などにより生息地が失われている。

### 日本の固有種はすごい！

固有種とは、特定の限られた地域に生息する種のことをいいます。世界を見ても、その地域にしか生息しないため、その地域の個体群の絶滅は種の絶滅を意味します。

日本は島国であるため、周囲と個体群が隔離されやすく、標高差が大きい複雑な地形、南北に長く、変化に富んだ気候条件などにより、種分化が起こりやすくなっています。日本国内で見られる動植物のうち、固有種の割合は、維管束植物で34%、哺乳類で45%、両生類で75%、魚類で11%と、世界的に見ても高い固有性をもっています。

国際的な自然保護団体であるコンサベーション・インターナショナルは、世界中で36ヶ所（平成29年現在）を、固有種が多く生物多様性の保全上、世界的に重要な地域として「生物多様性ホットスポット」に選定しており、日本は全域が、マダガスカルやガラパゴス諸島などと並び選定されています。

【茨木市で見られる日本固有種】

オオサンショウウオ

アジメドジョウ

ササユリ

# 自然観察で気を付けること

・ごみは捨てずに持ち帰りましょう。

・農地やため池は個人の方の所有物です。勝手に立ち入らないようにしましょう。

・危険な生きものには注意しましょう。

・公共交通機関の利用を心がけましょう。

・車で行く場合は、必ず駐車場を利用しましょう。

・林道をはずれることはやめましょう。

・野生動物への給餌はやめましょう。

・動植物のむやみな採集はやめましょう。

「自分一人だけなら採ってもいいだろう」という考えを多くの人が持つと、やがてその動植物は見られなくなってしまいます。花を折るだけでも、種で増える植物は子孫が残せなくなってしまいます。キンランやエビネ、シュンランなど、盗掘によって数が減り、滅多に見られなくなった植物もあります。

キンラン

エビネ

シュンラン

発行：茨木市
発行日：平成29(2017)年12月
編集：産業環境部　環境政策課
〒567-8505　茨木市駅前三丁目8番13号
TEL：072-620-1644
FAX：072-627-0289